冬期テキスト

実練編

国語

中学 3 年

第7講座 古典(1) ― 古文の読解

学習日 月 日

基本問題

1 **次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。**

ある人、*清水へまゐりけるに、①老いたる尼の行きつれたりけるが、②道すがら「くさめくさめ」と言ひもて行きければ、「*尼御前、何事をかくはのたまふぞ」と③問ひけれども、いらへもせず、なほ言ひ止まざりけるを、度々問はれて、うち腹たちて、「やや、*鼻ひたる時、かくまじなはねば死ぬるなりと申せば、*養ひ君の、比叡山に*児にておはしますが、ただ今もや鼻ひ給はんと思へば、かく申すぞかし」といひけり。

④有り難き志なりけんかし。

〈茨城高改〉

〈「徒然草」より〉

（注）清水＝京都市東山区にある清水寺。
尼御前＝尼への呼びかけの言葉で、尼様という意味。
鼻ひたる時＝くしゃみをした時。
養ひ君＝乳母が、自分の乳で養った子を呼ぶ言葉。
児＝寺院で召し使われる少年のこと。

問1 **仮名遣い** ――線①「まゐりけるに」、③「問ひけれども」を、現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書きなさい。

①（　　）　③（　　）

問2 **内容理解** ――線②「道すがら『くさめくさめ』と言ひもて行きければ」とありますが、「尼」がこのようにしているのはなぜですか。次の文の□A・Bに当てはまる言葉を、それぞれ現代語で書きなさい。

くしゃみをした時、□A□といわれているので、自分が育てた養い君が、□B□のではないかと心配だったから。

A（　　）　B（　　）

問3 **主題** ――線④「有り難き志なりけんかし」とは、作者のどのような評価を述べたものですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ある人の行為を非難する評価。
イ　ある人の行為をたたえる評価。
ウ　尼の行為を非難する評価。
エ　尼の行為をたたえる評価。

□

2 **次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。**

すべて、①あはれみの深き事、母の思ひにすぎたるはなし。愚かなる鳥獣まで、その慈悲をば*具したり。田舎の者の語りはべりしは、「*雉の子を生みて暖むる時、野火にあひぬれば、一たびは驚きて②立ちぬれど、なほ*捨てがたさの余りにや、けぶりの中に③かへり入りて、つひに焼け死ぬるためし多かり」とぞ。

また、鶏の子を暖むる様は、誰も見る事ぞかし。毛のへだたりたるを*あかず思ふにや、みづから胸の毛をくひ抜きて、膚につけてひねもすこれを暖む。④物*はまむために、*おのづから立ち去りても、かれが⑤さめぬ程に、と急ぎ帰り来るは、*おぼろけの志とは見えず。

〈近畿大附福山高改〉

〈「発心集」より〉

（注）具したり＝備えている。　子＝卵。　捨てがたさ＝見捨てがたい気持ち。
見る事ぞかし＝見かけることであるよ。　はまむ＝食べようとする。
おのづから＝たまに。　おぼろけの＝並たいていの。

SAMPLE

問1　仮名遣い　――線①「あはれみの」、③「かへり入りて」を、現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書きなさい。

①（　　）　③（　　）

問2　主語　――線②「立ちぬれど」、⑤「さめぬ」の主語を、次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア　田舎の者　　イ　雉　　ウ　雉の卵
エ　鶏　　オ　鶏の卵

②［　　］　⑤［　　］

問3　古語の意味　═══線a「あかず思ふにや」、b「ひねもす」の古文中での意味として適切なものをそれぞれ次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

a（ア　開かないと思うのだろうか　イ　明るくないと思うのだろうか　ウ　たくさんだと思うのだろうか　エ　物足りないと思うのだろうか）

b（ア　一日中　イ　すきまなく　ウ　そのまま　エ　だんだんと）

a［　　］　b［　　］

問4　助詞の補充　――線④「物はまむ」とありますが、現代語に訳す時に、「物」と「はまむ」の間に、補うべき助詞を平仮名一字で書きなさい。

（　　）

問5　主題　この文章で作者はどういうことを述べていますか。二十五字以内の現代語で書きなさい。

SAMPLE

▼要点のまとめ

入試で出題されやすい次のポイントに注意する。

1　仮名遣い―歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す

・特に語頭以外の「ハ行」の仮名は頻出である。

例・問ふ→問う　・まへ→まえ（前）　・なほ→なお（尚）

2　古語の意味―重要語の意味や、重要語を含む箇所の現代語訳

①古文に特有の言葉

例・いみじ（＝はなはだしい）　・いと（＝非常に）　・とく（＝早く）
・げに（＝本当に）　・いかで（＝どうして）　・つとめて（＝早朝）

②現代語とは意味が異なる言葉

例・あはれ、をかし（＝風情がある）　・うつくし（＝かわいらしい）
・いたづら（＝むだだ）・めでたし（＝立派だ）・あやし（＝不思議だ）
・ゆかし（＝知りたい）・聞こゆ（＝申し上げる）・にほひ（＝色つや）

3　省略語の補足―古文中で省略されている言葉は何か

・特に、①主語、②主語を示す格助詞「が」、③連用修飾語の格助詞「を」がねらわれやすいので、補いながら読む。

4　会話部分の指摘―会話文や、心の中で思った言葉にかぎかっこを付ける

・引用を示す格助詞「と」に着目する。

5　古典文法―「係り結び」の形と働きを整理する

	係助詞	結びの活用形	働き（意味）
①	ぞ・なむ	連体形	強意
②	や・か	連体形	疑問・反語
③	こそ	已然形（いぜん）	強意

6　主題・教訓などを捉える

・作者（筆者）の思いや主張は、文章の最初か最後で示されることが多い。

演習問題

1 **次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。**

〈洛南高改〉

〔中秋の名月の夜、中の君（小姫君）は箏の琴（十三弦の琴）を演奏していた。次は、夜が更けて眠りこんだ中の君の夢に天人が現れる場面である。〕

小姫君の御夢に、いとめでたくきよらに、髪上げうるはしき、唐絵の様したる人、琵琶を持て来て、「今宵の御箏の琴の音、雲の上まであはれに響き聞こえつるを、訪ねまうで来つるなり。おのが琵琶の音弾き伝ふべき人、天の下には君一人なむものしたまひける。これもさるべき昔の世の契りなり。これ弾きとどめたまひて、国王まで伝へたてまつりたまふばかり」とて、教ふるを、いとうれしと思ひて、あまたの手を、片時の間に弾きとりつ。「この残りの手の、この世に伝はらぬ、いま五つあるは、来年の今宵下り来て教へたてまつらむ」とて失せぬと見たまひて、おどろきたまへれば、暁がたになりにけり。琵琶は、殿も習はしたまはぬものなれば、わざと弾かむとも思はぬに、習ふと見つる手どものいとよくおぼゆるを、あやしさに、琵琶を取り寄せて弾きたまふに、大臣聞きたまひて、こは、いかにかく弾きすぐれたまひしぞ。めづらかなるわざかなと、あさみおどろきたまひつれど、夢をば、恥づかしうて、なかなかに語りつづけず。つねに習ひし箏の琴よりも、夢に習ひし琵琶は、いささかとどこほらず、たどらるべき調べなく思ひつづけらる。

〈「夜の寝覚」より〉

（注）
- さるべき昔の世の契り＝定められた前世の約束。
- 弾きとりつ＝弾き覚えてしまった。
- おどろきたまへれば＝目をお覚ましになると。
- 殿＝「中の君」の父親。後の「大臣」も同じ。　わざと＝特に。
- あやしさに＝不思議に思われて。
- あさみおどろきたまひつれど＝心の底から驚きあきれなさったが。
- なかなかに＝かえって。　いささかとどこほらず＝少しも手の止まることがなく。
- たどらるべき＝まごつくような。

問1 **主語**　――線A～Dの主語にあたる言葉の組み合わせとして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　A　中の君　B　天人　C　殿　D　中の君
イ　A　中の君　B　中の君　C　中の君　D　殿
ウ　A　天人　B　中の君　C　中の君　D　中の君
エ　A　天人　B　中の君　C　中の君　D　殿

問2 **古語の意味**　――線a「あはれに」、b「あまたの手」の古文中での意味として適切なものをそれぞれ次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

a
ア　心に染み入るように　イ　荒々しい音色で
ウ　しみじみと悲しく　エ　信じられない調子で

b
ア　一緒に弾く人　イ　人々の賞賛
ウ　多くの人たち　エ　数多くの歌

問3 **会話文**　古文中から、「殿（大臣）」が言った会話の部分を三十字以内で探し、初めと終わりの五字を抜き出しなさい。

□□□□□～□□□□□

問4 **内容理解**　この古文の内容として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　中の君が見た夢の話を知らない父の殿は、彼女が習ったことのない琵琶の曲を上手に奏でるのを奇妙に思った。
イ　中の君は夢で天人に教えられた秘曲をよく覚えていて、少しも手の止まることなく見事にお奏でになられた。
ウ　天人は中の君の琴の音を聞き、この人こそが琵琶の秘曲を教えるに足る人だと考え、すべての楽曲を伝授した。
エ　中の君は夢の中で天人から、琵琶の伝授を受けるとともに、国王にまで教え申し上げるようと厳命された。

SAMPLE

2 **次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。**

今は昔、ある大名極めて良き名馬を求めて、我が一大事の先途、見るべき物は此馬なりとて秘蔵せられ、馬の飼料とて、米・豆、潤沢にあてがはれしに、馬飼の者それを皆耗ぎて己が徳とし、馬には僅に草の糜乏しき程に与へて飼ひ置きぬ。案の如く天下乱れて戦に及ぶ。馬を秘蔵せしは此度の事なりとて、かの大名件の馬に召されしに、馬の漢も殊の外に鈍く、沛艾躍る勢も無し。大名大に怒りて、「かかる用にも立たぬ馬とは思ひも寄らず。いたはりて飼はせける事よ」とて、鞭にて散々に打ちければ、①この馬人の如くに物言ふて、いかに殿もよく聞き給へ。馬飼更に食を惜しみて、腹に飽く程与へたる事無し。さるままに力も弱く、心も勇まず、道も行かれずと告げ侍りと、古き人の語られし。かの御大名の、家中を責め懲り、百姓を扱き取り、情けなく振舞ひ給ふを、家中の者は、牢人すれば又抱へらるる事稀なり。②飢ゑてさへ死なずは力及ばずと思ひて、堪忍はいたせども、誠の一大事に臨みて、その御大名に③思ひ付かず。④かの名馬の如くに用に立たぬものとなり、押切るべき軍場をも逃げ崩して味方の利を失はするやうにならん事、目の前に見えたれども、後は後、今は今、当座の徳の行くこそよけれと思し召すも賢しや。

〈清風南海高改〉

〈「浮世物語」より〉

（注）先途＝勝負を決する大事の場合。　耗ぎて＝奪い取って。
徳＝利益。　糜＝濃いおかゆ。　召されしに＝お乗りになってみると。
漢＝馬の気性が荒く元気な様子。　沛艾躍る勢＝はねおどる力。
いたはりて＝大事にして。　責め懲り＝厳しく取り立てて。
扱き取り＝むしり取り。　牢人＝仕える主家のない武士。浪人。
賢しや＝あきれたものだ。

問1　会話文　――線①「この馬人の如くに物言ふて」とありますが、馬が人に言った言葉を古文中から探し、初めと終わりの五字を抜き出しなさい。

□□□□□～□□□□□

問2　現代語訳　――線②「飢ゑてさへ死なずは力及ばず」を現代語に直したものとして、適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　餓えさせたとしても死なせなければ、それでよいことだ。
イ　餓えても死なないようにすることは、自分の力では無理なことだ。
ウ　餓えて死ぬのでなければ、それ以上はしかたがないことだ。
エ　餓えてまで死なないでいるということは残念なことだ。

□

問3　古語の意味　――線③「思ひ付かず」の古文中での意味として適切なもの次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　気持ちが伝わらない　　イ　忠誠心がわかない
ウ　理解してもらえない　　エ　考え出すことができない

□

問4　内容理解　――線④「かの名馬の如くに用に立たぬものとなり」とは、誰がどのようになるということですか。三十字以内にまとめて書きなさい。

問5　内容理解　この古文の内容として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　名馬は飢えに苦しみ、不満が募り、主君のために働こうとしなくなった。
イ　家臣は不遇の状態に堪えられず、主君の命令を全く聞かなくなった。
ウ　主君は百姓から無理な取り立てを行ってでも、家臣の生活を守った。
エ　主君は目先の利益のみを優先し、家臣を窮状に追い込む悪政を行った。

□

SAMPLE

弊社サンプルをご覧いただき、
ありがとうございました。

紙面サンプルは
ここまでです！

Bunri Teachers' Site へのご登録で、
全ページ見本※と目次をご覧いただけます。

※一部教材を除く

会員登録はこちら

Bunri Teachers' Site とは？

株式会社文理が運営する、塾・学校の先生方のための情報サイトです。

- 文理の教材紹介
- デジタルサービスやテストのお申込み
- 教育情報の発信
- オンラインセミナーのお知らせ

■ Bunri Teachers' Siteへのご登録には弊社発行の招待コードが必要です。
■ 本サイトは一般の方のご利用をお断りしております。あらかじめご了承ください。

BUNRI